



# ふくしま グローバルセミナー 2019 実施報告書



日時 令和元年 11月23日(土) 10:00～  
24日(日) ～ 11:50



場所 JICA二本松

主催：福島県国際理解教育ネットワーク(FIENET「フィーネット」)

◎構成団体

福島県、福島県教育委員会、公益財団法人福島県国際交流協会、JICA二本松

(独立行政法人国際協力機構青年海外協力隊事務局二本松青年海外協力隊訓練所)

# グローバルセミナーとは

グローバルセミナーは、二本松市にJICAの青年海外協力隊訓練所が設置されたことを契機に、1997年に「東日本国際協力セミナー」という名称でスタートし、2019年をもって通算で23回目の実施となりました。

回を重ねるごとに、内容の充実を図るなど、工夫を凝らしてきたグローバルセミナーは、毎年、県内外から多くの方々の御参加をいただき、今回も高校生からシニア世代まで、幅広い経歴の方々が一堂に会し、寝食をともにしながら議論や体験を共有することにより、新たな出会いや発見や気づきを生み出す場とすることができました。

本セミナーは、講座を担当する講師も一参加者としてその相互の学び合いに加わり、“参加型の学びの場”が形成されるような運営を心掛けてきました。

このセミナーを通じて、まさに “Think Globally, Act Locally” を実践する福島発の多彩・多様な国際協力・国際交流の形を知ることができます。

参加された方々の中には、国際協力を専門的に学べる学校に進学した方や青年海外協力隊に参加された方、国際協力を行うための活動に乗り出した方など、行動を起こした方々が数多くおり、セミナーの開催趣旨である人材育成に少なからず寄与できているのも、参加者一人一人が本セミナーにおいて深く学び、真摯に思いを受け止めてくださった賜物にほかなりません。

2003年からは、福島県内の学校や地域における国際理解教育の普及や質の向上などの推進のために、福島県国際課・福島県教育委員会・JICA 二本松（独立行政法人国際協力機構青年海外協力隊事務局二本松青年海外協力隊訓練所）・（公財）福島県国際交流協会の4団体が連携・協力して、より効果的に事業を展開していこうと組織された「福島県国際理解教育ネットワーク Fukushima International Education Network（F I E N E T・フィーネット）」の事業として主催しており、講師を含めた参加者の皆さんが、意義を強く感じるセミナーに育ててきてくださっていることに深く感謝いたします。

## セミナー実施内容

- 1 開催趣旨 学校や地域において、国際交流、国際協力、多文化共生、国際理解教育・開発教育等の活動を担う人材を育成する。  
外国出身者などによる母国紹介や、国際協力現場レポートなど、20講座（自主セッションを除く）を実施。
- 2 開催日時 令和元年11月23日（土）～11月24日（日）
- 3 開催場所 JICA二本松青年海外協力隊訓練所
- 4 参加者数 103名（高校生34名、大学生24名、一般45名）  
（1日のみ参加：28名、両日参加：75名）  
※講師、スタッフを除く



## 開会式



(10:00~10:15)



11月23日 (土)

あいさつ

福島県生活環境部国際課 課長 國分 健児

福島県教育庁高校教育課 主幹 箱崎 兼一



## オープニングセッション



(10:15~11:15)

全体講師：小野 行雄 さん（かながわ開発教育センター）



◆ 講座のねらい

- ・参加者の緊張をほぐしながら、互いの学びについて期待を高める

◆ 講座の内容

1. 四人グループで共通点探し
2. シートに記入しながら自己紹介
3. 二人ペアで他に移動、今度は他己紹介

◆ 受講者の声

- ・自己紹介、他己紹介でいつもはあまりしない形式でお互い紹介し合えたのが良かったです。
- ・自然と打ち解けられる内容で、はじめは緊張しましたが、周りとの仲良くなれて良かったです。
- ・グローバルセミナーに参加させていただいたのは初めてで、どんなものかなと思っていましたが、体を動かし、みんなと楽しく交流することができました。
- ・これからの活動に向けて期待が高まる導入でした。

## 🍁 ランチ交流会 🍁 (11:30~12:45)



県の国際交流員の3人が進行。

交流員がそれぞれ自己紹介をし、乾杯の一声を上げ、会場の雰囲気盛り上げました。

◆ 受講者の声

- ・オープニングセッションで話した方と話したり、話したことのない方と話したりして、相手のことをより知ることができました。料理も美味しかったです。
- ・自分より年上の方たちと話すことができ、違う価値観の人との意見などでよかったです。
- ・たくさんの人と積極的にしゃべれて、自信ができました。
- ・たくさんの料理ありがとうございました。様々な方と交流し、自分の視野が広がった。

## 🍁 セッション1 🍁 (13:00~14:30)

### 講座 A

#### 24人にインタビュー

講座担当者：小野 行雄 さん (かながわ開発教育センター)



◆ 講座のねらい

- ・開発問題について、NGOによる支援活動の現場から考える

◆ 講座の内容

1. グループで自己紹介
2. スライドでフィリピンの漁村を紹介
3. 漁村の直面する問題を紹介、どの問題から解決するかグループで決定
4. 選んだ問題に関するロールプレイシートを配布、各グループ内でロールプレイ問題の解決方法について討議、決定
5. 各グループの感想を聞きながら講師が解説

◆ 受講者の声

- ・実際に村人や NGO スタッフの立場になって考えることで課題を解決しようとしたときに発生する課題や優先順位についても学ぶことができた。
- ・フィリピンの問題点について深く知ることができたり、考えたりすることができ、充実した時間を過ごせました。
- ・グループ活動で NGO の現地での活動には様々な視点があることを知りました。答えのない課題だと思いますが、ニーズがどこにあるのか本質を見極めることが活動の基本にあると思いました。
- ・サンタ・メルセデス村のために、どうすればよいのかグループ内セッションで考えることができて良かったです。今後この村がどうなっていくか興味を持ちました。

## 講座 B

### 食べることは〇〇なこと？

講座担当者：後藤 祥与 さん（特定非営利活動法人 南茶和 元青年海外協力隊 [栄養士]）



◆ 講座のねらい

- ・私たちの生活に切り離す事のできない食べることについて、国際視点から考える

◆ 講座の内容

1. アイスブレイク後、グループ分け（4 から 5 人/1 グループ）
2. フィジー料理（国の名前はふせる）の写真からその料理に使われている食材当てやどんな国か（文化、天候、宗教、栄養問題）について推測してもらう
3. 料理の答え合わせ、フィジーの紹介や協力隊活動体験談、栄養士として、協力隊としての経験から食について考える
4. グループごとの食べることについての考えの発表

◆ 受講生の声

- ・フィジーの暮らし、食生活を知ることができた。食について参加者の考えを交流できて面白かった。
- ・「食べることは生き物に与えられた共通の文化だ」。共通であるからこそ世界につながり、その人の人生に直結していくことだと思った。
- ・国々の食文化が違うことや、自国で食べ物を育てられない中、どう過ごしているかなど様々な問題や体験談をまじめに話されていて、よかった。
- ・改めて「食べることは？」と問われ、考えさせられた。単におなかを満たすだけでなく、人と人が繋がる大切なものだと思った。

## 講座 C

### カナダ社会の強み：カナダ文化の多様性

講座担当：ウィンズ・祐希・ミッシェル さん（福島県国際交流協会 国際交流員）



- ◆ 講座のねらい
  - ・カナダの多文化共生社会の特徴や魅力を理解する
- ◆ 講座の内容
  1. アイスブレイク：他己紹介
  2. カナダの多様なコミュニティをいくつか紹介し、移民や難民の受け入れなどについてお話しする
  3. 受質問の時間や意見交換
- ◆ 受講生の声
  - ・それぞれの意見を尊重しながら、お互いの文化を理解していくべきだと感じた。また、セッションの初めのアイスブレイク（英語での他己紹介）が楽しかった。
  - ・カナダの共生社会のメリットについて知ることができた。日本社会にどのように生かしたらいいのだろうか…。
  - ・カナダの多文化について理解が深まりました。日本人とは全く違う環境に驚きました。とても分かりやすかったです。
  - ・多文化共生を楽しむことについてとても感心しました。
  - ・多文化共生社会の重要性を説明していただき大変良かったです。日本もこれから見習っていくべきではないかと思いました。

## 講座 D

### 「2030 SDGs」カードゲームを体験しよう！

講座担当者：吾妻 久 さん（福島県立郡山高等学校教諭）



- ◆ 講座のねらい
  - ・SDGsの達成のために、一人一人ができるアクションをおこすきっかけづくり。
- ◆ 講座の内容
  1. 導入：アイスブレイク（お互いを知るための共通点探し）
  2. 展開：SDGs およびカードゲームの紹介、ゲーム体験
  3. まとめ：ふり返り（ブレインストーミング）
- ◆ 受講生の声

- ・世界はどのように動いていくのかを考えさせられるゲームでした。色々なニーズや、目的を持った人が交渉やプロジェクトをしていくのが興味深かったです。
- ・SDGsのことをより深く知ることができました。また、カードゲームをやって、世界にはたくさんの価値観があり、そのすべてを満たすことは難しい事なんだということを知ることができました。
- ・自分の目標を達成することだけでなく、世界の環境、社会問題にも意識しようという内容がとてもよかったですと思います。もう少し長い時間でやりたかったです。
- ・SDGsのカードゲームをし、SDGsについてより多くのことを知り、自分自身で考えることができた。

## 講座 E

### 韓ドラから考える韓国の社会像

講座担当者： 梁 姫淑 さん（桜の聖母短期大学）



#### ◆ 講座のねらい

- ・ドラマを通して日韓の文化の違いや共通点を学び、相互理解を深める

#### ◆ 講座の内容

1. 日本、韓国、アメリカドラマの特徴を抑えながら、韓国ドラマを面白くさせる要素を述べる。
2. 幾つかのドラマを紹介しながら、日韓の文化の違いや共通点を分析する。
3. 韓国ドラマから見られる社会像を通して、隣国に対する理解を深める。

#### ◆ 受講生の声

- ・日本のドラマの作り方の違いを考える機会となりました。韓国のドラマは感情的というところに納得しました。日本のドラマは考えてみると教訓が多いです。違う視点で良かったです。
- ・具体的な韓国ドラマを基に日本と韓国の社会事情が学べてとても良かった。
- ・日本のドラマと韓国のドラマの違いや特徴などが分かり、とても面白かった。面白そうなドラマが紹介されていて、観てみたいと思った。
- ・韓国のドラマと日本のドラマの違いを知ることができたし発音も丁寧に教えてもらって楽しかった。

## 講座 F

### パレスチナ難民キャンプの子どもたちと初めての音楽授業

講座担当者： 長沼 舞子 さん（元青年海外協力隊 [音楽]）



#### ◆ 講座のねらい

- ・音楽室や楽器がなくても工夫次第で音楽授業は行えることと、宗教や文化により音楽への概念が異

なる中で、どのように音楽教育とその効果を周知出来るかを一考する機会とする。

◆ 講座の内容

1. 講師略歴紹介、青年海外協力隊の音楽隊員とは？ヨルダンとパレスチナ、ヨルダン国内のパレスチナ難民キャンプについて
2. イスラム教徒が大半を占める難民キャンプの小学校を舞台とし、日本とは違う宗教、文化、環境の中でどのような授業を出来るか参加者が考え、皆で行う。  
講師が協力隊として行ったことを紹介し、合間にストレッチやリトミック、発声練習、歌唱を行う。上記意見発表や音楽活動は見学も可。参加者自ら楽器演奏、歌唱、リトミック指導等は  
大歓迎。
3. 参加者それぞれの意見を発表。講師の協力隊活動での反省点も紹介。

◆ 受講生の声

- ・ヨルダンでの活動に参加した経験について、聞くことが出来て良かった。実際に当時の事を体験できてよかったです。
- ・子供たちの楽しそうな姿がすごく印象的だった。難民の生活のきびしさや難しさなども知ることができた。すごく興味を持てる講座だった。
- ・現地での話を実際に聞くことができて、とても良かったです。とても強い思いを持って、活動されているんだと、とても感動しました。
- ・小さい頃からピアノを習ったり、義務教育を受けていることが当たり前と感じていたが、決してそれが当たり前ではないんだと改めて考えさせられた。

## 講座 G

### ～国際協力ってなんだろう～ JICA海外協力隊員の活動を通して考える国際協力～

講座担当者：坂本 拓馬さん、井上 泰輔さん（JICA二本松スタッフ）



◆ 講座のねらい

- ・ JICA海外協力隊の実際の活動を通して国際協力とは何かを参加者に考えていただく

◆ 講座の内容

1. JICA海外協力隊の応募概要と派遣システムの説明
2. JICA海外協力隊経験談

◆ 受講生の声

- ・ エジプトに派遣された方の話を聞き、とても感動した。自分から何をすればいいのか考えることが大事だと思った。
- ・ JICAや青年海外協力隊についてあまり知らなかったのですが、最初にこの講座でイメージがわきました。興味もかなり湧いてきました。
- ・ 「国際協力ってなんだろう」というなぞが解けました。協力隊員のエジプトでの話を聴いて、自分が想像していたのと違うことがたくさんあることを知りました。
- ・ ボランティア社会への還元など。計画、行政（コミュニティ開発）、逆カルチャーショックは出発まで、そして、出発から帰国までよく理解できました。

## 🍁 セッション2 🍁 (14:45~15:45)

### 講座 A

#### フォーだけじゃない”ベトナム”にせまる！！

講座担当者：菅野 由夏 さん (元ハノイ日本人学校 (二本松市立小浜小学校教諭))



#### ◆ 講座のねらい

- ・ベトナムという国や、日本人学校への理解を広める

#### ◆ 講座の内容

1. ベトナムのイメージについて話し合う。(BINGO ゲームを入れる。)
2. ベトナムの文化・歴史について、またハノイでの生活や日本人学校の様子について、写真や体験談をもとに話す。
3. 日本に帰ってきてから感じたことから、異文化理解 (国際理解) とは何かについて考える。

#### ◆ 受講生の声

- ・ベトナムのイメージがさらに広がり興味深い話だった。日本人学校の話もその位置づけが分かりやすかった。これからのベトナムの課題にも気づくことができた。
- ・ベトナムの興味深いお話しをととても楽しくお聞きすることができました。講師の先生が見られたベトナムの姿を知ることにより親近感を持ってました。
- ・ベトナムのことを詳しく知りませんでした。このセッションを通して、ベトナムの様々な事を知ることができました。ベトナムの友達がいるので、もっとお話を聞いてみたいと思います。楽しかったです。
- ・「ベトナム」のことについて何も知りませんでした。とても魅力がある国だと、講師の方の話ぶりからも感じられ、とても興味がわいてきました。

### 講座 B

#### ニュージーランドの伝統的な編み細工体験を通して、カィティアキタンガ (環境保護) を考える

講座担当者：トビー・バークベックジョーンズ さん (福島県国際課 国際交流員)



- ◆ 講座のねらい
  - ・マオリ族の文化、環境保護の考え方と簡単な編み細工の方法について教えること
- ◆ 講座の内容
  1. 先住民であるマオリ族の歴史と文化のまとめ
  2. カイティアキタンガという環境保護のコンセプトを紹介
  3. 編み細工の文化について紹介「ティパレ」という鉢巻の編み方を教える
  4. 参加者は編んでいる間に手伝いと質疑応答
  5. 作成の早い参加者に魚の編み方も教える
  6. カイティアキタンガの重要さと編み細工のつながりをまとめ
  7. 最後の質疑応答
- ◆ 受講生の声
  - ・BGM の中ティパレ作成に集中しました。現地の風の中で、本物のフラックスで編んでいるみたいです。ワークショップ楽しいですね。やさしい環境保護が感じられる時間でした。
  - ・自然を自分達で大切にしていくという文化があるのは、すごく良いことだなと思いました。実際に工作をしたり、とても楽しかったです！
  - ・ニュージーランドの歴史から、今の状況を細かく説明していただいて、とても分かりやすかったです。伝統の編み方も楽しく学びました。
  - ・マオリ族についてはじめて知りました。もう少し勉強してみたくくなりました。

## 講座 C

### ビバ！エルサルバドル陽気な障がい児・者支援 ～パラ・スポーツも盛んな特別支援学校での2年間～

講座担当者：原 美子 さん

(放課後等デイサービスむすび山下教室 元シニア海外ボランティア [障がい児・者支援])



- ◆ 講座のねらい
  - ・エルサルバドルについて、また、障がい児・者とのかかわり方について一緒に考える。
- ◆ 講座の内容
  1. エルサルバドルの国の情勢や治安、庶民の生活や食べ物などを知ってもらう。現地の食べ物（トルティーヤ）を準備する。
  2. 派遣された特別支援学校での体育やスポーツの授業の様子を見ながら、現地のパラ・スポーツへの取り組みや、障がいのある子どもたちの様子を知ってもらう。簡単な知的障がいの疑似体験をしてもらう。
  3. 生活や活動を共にしたからこそわかったエルサルバドルや日本の良さを知らせる。また、この機会にパラ・スポーツに関心を持ち、障がいのある方とのかかわり方について一緒に考える。
- ◆ 受講生の声
  - ・指先にホチキス留めた軍手を使って作る花のワークは、障がいの疑似体験ができてとてもためになった。
  - ・海外に行くことで日本の古き良き姿を再発見することができたという言葉がとても印象が残った。
  - ・軍手をつけて折り紙を広げたり、「ちょっと」や「きちんと」ということばを絵で表現するという

活動を通して、普段自分が意識していないようなことについて考えることができました。また衛生管理や、人との関わり方など、日本とエルサルバドルの違いを知りました。

- ・色んな障がいがあるということと、障がい別に接し方が違うということを知ることができました。これから色々な障がいを知り、対応を考えていきたいなと思いました。お菓子も美味しかったです。

## 講座 D

### 現代のモンゴル

講座担当者：ドルジョー ボロルツェツェグ さん エレヘムバヤル ホラン さん  
(特定非営利活動法人シェア・ラブ・チャリティーの会)



- ◆ 講座のねらい
  - ・現代のモンゴルについて知ってもらう
- ◆ 講座の内容
  1. モンゴル国とは？首都ウランバートルについて、現代のモンゴル
  2. モンゴルについて、主に経済や人々の生活スタイルや街並みなど述べていく。
  3. モンゴルについて正しい情報を伝え、今までのイメージを少しでも変えてもらう。
- ◆ 受講生の声
  - ・モンゴルのイメージはあまり思い浮かばなかったのが、現代のモンゴルについて知ることができて面白かった。
  - ・とても詳しく色々教えていただき、とても興味深いお話でした。
  - ・モンゴルの現状が、よく理解できました。一昔前の日本が外国から見られていたイメージと、同じ感覚でした。教育や人間を大事にすることが素晴らしいです。
  - ・モンゴルについて何も知らなかったですが、このセッションでより詳しく知ることができました。このことを周りの人にも伝えたいです。

## 講座 E

### 国際緊急援助と誰でもできること ～恩返しの連鎖が世界を繋ぐ～

講座担当者： 大友 仁さん ((公社) 青年海外協力協会二本松訓練所 )



- ◆ 講座のねらい
  - ・国際緊急援助の経験を通し、誰でもできることがあることを知ってもらい、誰でもできることが、心がつながるきっかけとなり、相互扶助が広がることを知ってもらう

◆ 講座の内容

1. 自己紹介（経歴と 27 回の国際緊急援助派遣）
2. 緊急援助隊の紹介
3. ハイチ・フィリピン・ミャンマー・ネパールなどでの緊急援助経験
4. 緊急援助の輪を感じた事例
5. 直接的支援ではなくてもみんなができる支援について
6. 災害を糧に強く生きること

◆ 受講生の声

- ・養護教諭として「私たちにできることは、そばに寄り添って話を聞いてあげること」という言葉は、わかりきっていたつもりが、改めて聞き感動した。
- ・自国の隊員を守りながら、限られた時間内に援助を行う、活動中はもちろん、日頃の様々なことに対する気付きが必要。
- ・心が繋がると EARTH になるが印象に残りました。ボランティアの大切さ、たいへんさなど、様々なことを学びました。
- ・国際緊急援助について詳しく知れたし、心と心の輪がとても大切なのだと気づけてとてもよかったです。

## 講座 F

### 運命に導かれて ～ルワンダの未来を担う子供達のために～

講座担当者：永遠瑠 ルーシー さん （NPO法人 ルワンダの教育を考える会）



◆ 講座のねらい

- ・ルワンダと日本という二つの国にルーツを持つ私の思いを知ってもらう！
- ・自分の知らない国、ルワンダという国を知ってもらう！
- ・ルワンダの子ども達の笑顔、活動をする団体について知ってもらう！

◆ 講座の内容

1. ルワンダの教育を考える会という団体のこれまでのあゆみ（パンフレットと写真を使って）
2. 私自身のこれまでのあゆみについて、今現在どのようにして活動に携わるようになったのか（母親と家族が日本に来日することになったかなど）
3. ルワンダという国の過去に起こった歴史と 25 年経った今現在どういう人々が暮らしていて、どのような国になっているのか。
4. 教育支援というテーマについて、日本とルワンダを比較して、ルワンダの子ども達のために何を活動しているのか。

◆ 受講生の声

- ・ルワンダという国について詳しく知らなかったのですが、その歴史的背景や先生のバックグラウンドについて知ることができ、ためになりました。
- ・ルーシーさんがどう考えて、どのような活動を行っているのかが伝わってとても良かったです。
- ・ルワンダの国の歴史、虐殺の事実、学校支援の活動について、ルーシーさんの成長と重ね合わせて知ることができて、とても興味深かった。
- ・ルワンダについて知ることができ、表面的にはアフリカは発展してきたけど、その陰でひどい貧困状況の人がいて、そのような方にもっと目を向けたいと思った。

## 講座 G

### 国際協力と J I C A 海外協力隊～グローバル人材を目指す方へ～

講座担当者：富安誠司 さん （ J I C A 二本松青年海外協力隊訓練所 所長 ）



#### ◆ 講座のねらい

- ・ JICA 海外協力隊をはじめとする日本の国際協力を行うにあたり、日本の経験が役にたっていることを事例紹介やビデオ視聴を通じて理解する。また、途上国で役立つ日本の経験は、必ずしも高い専門性は必要ではなく身近な生活にあるものであることを知ることで国際協力への関心を高めてもらう。

#### ◆ 講座の内容

1. 国際協力に役立つ日本の経験
2. 算数教育 での協力隊員の活動事例（日本の経験を活かし）
3. グアテマラクイズ
4. JICA Net マルチメディア教材の紹介
5. 生活改善 アプローチ
6. 日本式教育（エジプトの事例）

#### ◆ 受講生の声

- ・ ニーズをとらえることの大切さを感じました。前のセッションも共通することですが、いかに「聞くか」という点では、教育にも通じる要素だと思います。
- ・ クイズなどもあって面白かった。日本式の生活や学校の取り組みを外国にも用いて、清潔な環境や良い教育環境を作る過程にすごく感心を持てた。
- ・ 日本での経験をどうグアテマラの生活改善につなげていったのか、活動をするためにどんなことが必要なのか知れた。
- ・ 日本の経験が海外の生活支援にいかせるということ、支援を受ける側の話をよくきくことが大切だと分かりました。

# クロージングセッション1 (16:00~16:40)

## 1 1日目の振り返り

全体講師：小野 行雄 さん（かながわ開発教育センター）



### ◆ 講座のねらい

- ・ 1日を振り返り、翌日の期待を高める。

### ◆ 講座の内容

#### 1. グループで1日の振り返り

### ◆ 受講生の声

- ・ たくさんの方々と考えを共有することができて、自分の考えをより深めることができました。モヤモヤを解消するのは難しいかもしれませんが、もっと考えていって、解決に少しでも近づきたいです。
- ・ 自分が聞けなかった講座の話を聞いて良かったです。限定されている部分のフォローになりました。また、アウトプットすることでプレゼン練習になりました。
- ・ 今日一日で学んだこと、感じたこと、モヤモヤしたことなどを他の人に伝えることで自分の中でも整理することができた。
- ・ それぞれのプログラムに対しての考えや見方が本当に素晴らしいと感じました。一緒に参加している皆さんのお話はとても充実しています。

## 2 1日目終了の挨拶

公益財団法人福島県国際交流協会 事務局長 橋川 敦子



## 🍁 宿泊オリエンテーション 🍁 (16:50~17:30)

施設の使い方、グロセミカフェ、夕食についての説明、翌日の自主セッションのPRを行った。



## 🍁 夕食 🍁 (18:00~18:50)



### ◆ 受講生の声

- ・席に座って食べる形だったので、周りの人と深い話をすることができた。
- ・県のスタッフの方々ともお話をさせて頂きました。とても明るい雰囲気でした。
- ・料理もおいしくいただくことができました。まわりにいた方とも楽しくお話できたので良かったです。
- ・色々なセッションで仲良くなった方と講座の内容に対する意見交換ができて有益だった。

## 🍁 グロセミカフェ 🍁 (19:00~20:30)

夕食後の時間を使って、グロセミカフェと題して講師とのフリートーキングの時間を設けた。参加者は、飲み物を片手に講師のブースを自由に移動しながら、気軽に話を聞くことができた。





◆ 受講生の声

- ・カナダの方と祝日について話したり、中国の難しい漢字を書いたりした。大人の方と英語で話すのは緊張したけど、楽しむことができた。
- ・お茶を飲みながら気軽な雰囲気交流することができました。英語のコミュニケーションや英語の表現が思いつかず戸惑ってしまいました。
- ・タンザニアの教育や生活について現地の教科書新聞お菓子にふれてたくさんの事を学びました、お習字（中国の漢字）も楽しかったです。
- ・ポッチャやニュージーランドについてや習字や英語など色々な活動を通して知らないことがたくさんあることに気づかされました。これから色々な国や、社会の活動を知っていきたいです。

朝の集い(6:30~7:00)

11月24日(日)

朝のトレーニングとして、ラジオ体操を行った。



自主セッション (8:30~9:20)

A ヨロブン アニョハセヨ

講座担当者：あさか開成高等学校 安齋 朋夏さん 他7名



◆ 講座PR文

- ・9月に行われたあさか開成高校海外派遣事業（韓国研修）に参加した生徒が、韓国の文化や現地でのホームステイ、街頭アンケートなどについて話をします。ニュースでは知ることができない

韓国に会うことができるかもしれません。また、折り紙で韓国の伝統衣装「チマチョゴリ」を折り、ハングル文字を組み合わせてカードを作ります。ぜひお越しください。

◆ 受講生の声

- ・韓国料理は知らないものがたくさんあるなと思いました。チマチョゴリを折ってハングル文字を書くのがとても可愛かったです。
- ・折り紙を教えることはできたけど、韓国語の読み方を教えることができなかったので、次にはもっと調べてから自主セッションを臨みたいです。
- ・韓国について行ってみたいと分からないことがたくさん知ることができた。また、高校生の皆様に韓国のかわいい伝統服を折り紙で教えていただきました。

B 新たな世界へのトビラ -オーストラリアとパラグアイ留学生による発表-

講座担当者：AFS 日本協会福島県支部 留学生

Mr. Luis Alejandro Herrero Amarilla Mr. William Geoffrey Bladen



◆ 講座PR文

- ・今年4月から福島県で生活を始めた2名の留学生が、元気いっぱい発表します!簡単なワークをしながら、文化や言語といった異文化を体験できます。オーストラリアとパラグアイに興味がある方、是非お越しください!

◆ 受講生の声

- ・ルイスとウィルとってもかわいいと思った。日本の文化を好きだと言ってきて嬉しかった。
- ・留学生の2人がゲームを交えながら楽しくオーストラリアやパラグアイのことを教えてくれた。同年代の留学生が日本でどんなことを感じているのかを知ることができた。
- ・パラグアイとオーストラリアの違いについてゲームを通して楽しく学ぶことができました。ルイスさんとウィルくんが一生懸命日本語で話してくれたのが好感を持ってました。
- ・あまり知らなかったパラグアイについて知ることができ、とても興味深いものでした。

C あなたの「世界と繋がる”意味”と”方法”」とは?

講座担当者：See You Soon 中野 晃介さん、坂本 純一さん、佐藤 彩菜さん、佐々木 茉弥さん



◆ 講座PR文

- ・内閣府事業「東南アジア青年の船」が母体の国際交流団体「See You Soon」高校生スタッフが、東南アジア各国代表青年とのディスカッションイベント、ホームステイ受け入れ経験について語ります。参加者の皆さんも一緒に「世界と繋がる”意味”と”方法”」考えてみませんか?

◆ 受講生の声

- ・See You Soonで人の発展、国際社会との関わり方を4つの事例から自分と結び付けて考えるこ

とができました。

- ・ いろいろな国際交流のあり方というものを4つの視点から聞いて、考えることができ、やはり自ら積極的に動きプロジェクトに参加することが大事だと思いました。
- ・ 人数の多さと、フォーマルかカジュアルかで国際交流活動の方法が分かれていて、自分はカジュアルで少人数での交流をしたいと考えた。
- ・ 国際交流がカジュアル～フォーマルまで、様々な形があって良かったと思いました。

(D 講座は講師体調不良で中止になりました。)

#### E 私が旅に出た理由～バヌアツ交流記～

講座担当者： 昆 茉莉花さん（郡山高等学校）



##### ◆ 講座PR文

- ・ 世界で何が起きているのか知りたい！そう考えて訪れたバヌアツ共和国。見るもの聞くもの初めての場所で経験したことをミニクイズを交えながらご紹介します。セッションで感じたあなたの意見を聞かせてください。ぜひお越しください！

##### ◆ 受講生の声

- ・ 高校生の鋭く、新鮮な思いがよく表れていた。
- ・ バヌアツの知識が全くなかったので、色々知れて良かったです。

#### F そうだ！「台湾へ行こう」台湾縦断の旅

講座担当者： 古山 良宏さん



##### ◆ 講座PR文

- ・ 日本人の海外旅行先のひとつとして人気が高い「台湾」に、10月にチャーター便を利用して行ってきました。食べ物、観光、自然等、魅力いっぱいの台湾について、写真をまじえて紹介します。また、東南アジアを中心に、海外旅行で感じたことを発表します。気軽にお越しください。

##### ◆ 受講生の声

- ・ 台湾の旅を丁寧にお話していただき楽しかったです。お茶とドライマンゴーごちそうさまでした。
- ・ 台湾に行って感じられた生の感想を聞いて良かった。おいしいドライマンゴーやお茶もごちそうさまでした。
- ・ 台湾に興味があったので、今回のお話を聞いてより行ってみたいくなりました。縦断できる新幹線があるのが驚きました。

- ・台湾の見どころや隠れた魅力を発見することができた。また、台湾茶、ドライマンゴーを初めて食べたのでとても楽しい時間でした。

## G Challenge & International cooperation conference

講座担当者：半澤 葵さん（安達高等学校）



### ◆ 講座PR文

- ・私は、「NY-KIZUNA project」や「きらめきみらい塾」など国際系の校外活動を中心に視野を広くもって日々活動しています。活動を通して見えてきたものを個人セッションを通してみなさんと共有したいです！第2部は国際協力をテーマにディスカッションしましょう！（内容は当日まで秘密です笑）。是非お越しください！！

### ◆ 受講生の声

- ・色々なチャレンジで成長したことが分かった。自分の気持ちを自分の言葉で伝えていてよかった。ちゃんと伝わりましたよ！！
- ・自分の知らない校外学習があつて共感できてよかったです。
- ・高校生だけど、本当にいろいろ学んでいて、自分も勇気づけられた。
- ・とても良い経験をたくさん聞けて嬉しかったし、私もあおいさんのようにたくさん活躍してすてきになりたいです。

## H グアテマラの刑務所で

講座担当者：足立 ひかるさん（青年海外協力隊 0V）



### ◆ 講座PR文

- ・青年海外協力隊で派遣されていた、中米グアテマラ。「見学させてください」と刑務所を突然訪ねた私を待っていた驚きの対応とは?!知っておもしろい、ディープなグアテマラをお伝えします。

### ◆ 受講生の声

- ・刑務所の中だけでなく、グアテマラの内容も聞くことができ充実でした。
- ・ポイントをしばった発表で深まりました。クイズ形成でみんなが参加した感が高まりました。
- ・グアテマラだけでなく日本の刑務所のことも知ることができた。
- ・「日本の文化と違って驚いた、ギャップがあった!!」というのはよく聞く言葉ですが、それが現実に存在していることを改めて認識した回でした。

## 🍁 セッション3 🍁 (9:35~10:45)

### 講座 A

#### GHANAチョコだけじゃないGHANAのこと

講座担当者：上野 真理恵 さん (元青年海外協力隊[学校保健])



- ◆ 講座のねらい
  - ・ 2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向け、福島県猪苗代町がホストタウンとなるガーナについて、理解を深めてもらう。
- ◆ 講座の内容
  1. ガーナの簡単な紹介と自己紹介
  2. ガーナに関するクイズ {衣食住や、文化に関する簡単なクイズ。ガーナチョコ試食を含む(希望者のみ)}
  3. ガーナと猪苗代町の関係について
- ◆ 受講生の声
  - ・ パワーポイントをフルに使って現地での活動の様子が分かりやすく伝わった。実際にガーナのものを使っての表現なども楽しかった。
  - ・ 素晴らしい講座でした。楽しくてためになって最後には現地の方と交流する隊員のすばらしさにホロリとしてしまいました。ありがとうございました。
  - ・ ガーナといえば「チョコ」というイメージしかなかったのですが、このセッションを通して、ガーナの文化や人との事をたくさん知ることができました。
  - ・ クイズや動画を通してガーナのことがよくわかりました。現地の人の暮らしにとけこんで支援している隊員の姿が分かったし、帰国してから果たしている役割に大きいものがあると思いました。

### 講座 B

#### An English conversation about Fukushima's current status

講座担当者：Stephen Takeshi Terada さん



- ◆ 講座のねらい
  - ・ 福島の風評被害克服のためにスティーブ・テラダが行っている活動について紹介する。

◆ 講座の内容

1. Terada さんの略歴の紹介と福島にいる理由についての説明
2. Terada さんの使命と活動についての説明：福島を支援する人々が、海外で福島について語る時に突き当たる壁について説明。人はどのように物事を変えていけるかについて説明。
3. Terada さんの経験から何を学べるか：Terada さんが世界に向かって福島についてどのように語っているか。そしてあなたは Terada さんの経験から何が学べるか。

◆ 受講生の声

- ・ハワイから見た福島の思いを聞けました。自分から発信出来ることを考えて正しい情報を伝えていきたい。
- ・福島の今の状態を日本人以上に知っている方がいるというのが興味深かった。
- ・今まで実際に被災された方の話を聞いてきましたが、外からの視点のお話を初めて聞いたので、とても参考になりました。
- ・英語は難しかったけど、とてもためになりました。

## 講座 C

### インドネシアに暮らして～竹楽器アングルンとの出会い～

講座担当者： 森田 美穂さん （多文化共生・国際交流人材バンク登録者）



◆ 講座のねらい

- ・ジャカルタで生活する中で感じた日本との文化の違いや共通点を紹介し、伝統楽器アングルンの体験合奏をする事で、参加者の一体感を味わう。

◆ 講座の内容

1. インドネシアはどんな国？日本との文化の違いや共通点について、また、駐在中に苦労した事や日本では体験できない事も紹介します。
2. 海外生活で得た経験を今後の生活でどう活かしたかも触れます。滞在中に出会った伝統楽器アングルンを演奏します。
3. アングルンは簡単に音を出せる楽器なので、今日ここで出会った皆さんで即興で合奏をしてみましょう。

◆ 受講生の声

- ・以前から東南アジアには興味があり、自分が知っていた知識などとも比べながらインドネシアの暮らしについてのお話が聞けたのが良かったです。
- ・生活するには少し気を使いながらの生活だなと思いましたが、多様性の中の統一という言葉が印象に残りました。日本の文化も親しまれていて興味を持ちました。
- ・インドネシアの文化を知ることができました。日本と似ている所が多くて驚きました。初めて見たアングルンはつなげて演奏することができました。
- ・インドネシアについて知れた。インドネシアに住んだ経験をありのままに話していただいたので、実状が分かった。最後にやった楽器はとても幼児教育や小学教育に活用しやすいと感じた。

## 講座 D

### 東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けた福島県の実践

講座担当者： 久保川 芳宣 さん （福島県オリンピック・パラリンピック推進室）



#### ◆ 講座のねらい

- ・東京 2020 大会のコンセプト「ダイバシティ&インクルージョン」を理解してもらう。

#### ◆ 講座の内容

1. 福島県のオリンピック・パラリンピック開催準備の実践（小クイズあり）
2. 福島県の「ホストタウン」についての実践（小クイズあり）
3. 座学のあと、「福島県都市ボランティア」の研修内容と全く同じ教材を活用して、オリンピックのボランティアの雰囲気を体験してもらいます。
4. ジェスチャークイズ（アイスブレイク）  
「耳の不自由な人、日本語が通じない人にこのオリンピック競技を伝えてください」  
（グループワーク）「障がい」とは何か（映像を見てグループ討議）  
障がいのある方・外国人の立場になって見えてくるものとは？
5. 「障がい」や「差別」とは、受け手の「態度」であることを理解してもらう。
6. 頭で理解するのはもちろん、身近な工夫で、外国人や障がい者と楽しく
7. 普通に共存できることを知ってもらう→「心からのおもてなし」

#### ◆ 受講生の声

- ・パラリンピックを迎えるにあたって、身の回りで普段気付かなかった事柄への配慮について考えることができました
- ・オリンピックの話に関係づけて、勇気をもって声をかけることの大切さを感じた。
- ・「多様性」と理解をするうえで、障がいというのはつきものである。しかしそう乗り越えるか考え続けなければならない。
- ・オリパラの動きや都市ボランティアが学ぶことが体験できて良かったです。もう少し福島県の動きを知りたかったです。

## 講座 E

### THIS is TANZANIA ～JICA教師海外研修で学んだこと～

講座担当者： 半澤 敦司 さん （伊達市立梁川小学校教諭）



- ◆ 講座のねらい
  - ・ 教師海外研修に参加して、研修内容や、新しく知って感じたこと考えたことなどを伝えると共に、授業プログラムの紹介をしたり、体験したりする。
- ◆ 講座の内容
  1. 写真合わせ（グループづくり。アイスブレイクとして）
  2. 自己紹介
  3. 研修内容紹介
  4. 授業実践紹介
  5. 意見交換
- ◆ 受講生の声
  - ・ 幸せとはなにか、貧困＝不幸ではない。という言葉聞いて、これから、しっかり考えていかなくてはいけないと思いました。
  - ・ 講師の方が陽気にタンザニアのことを教えてくれた。「貧困≠不幸せ」というキーワードが心にささった。
  - ・ 貧困だけど幸せすごく刺さりました。自分の持つイメージがあくまでイメージであって、勝手な尺度で決めてはいけないと学びました。
  - ・ 先生がとても面白い方で、とても楽しくお話を聞くことができました。

## 講座 F

### 面白い漢字

講座担当者： 黎 永楊 さん（福島県国際課 国際交流員）



- ◆ 講座のねらい
  - ・ 日常生活で使われる漢字の歴史や作り方をすることで、漢字の魅力を感じる
- ◆ 講座の内容
  1. 漢字の歴史を通じて、現代社会での漢字の地位を知ってもらう。
  2. 漢字のクイズによって、漢字の作り方を知らってもらう。
  3. 漢字を書くことによって、漢字の魅力を味わう。
- ◆ 受講生の声
  - ・ もともと中国に興味があったので、すごく楽しいセッションだった。習字をしたのも中学生ぶりだったので、体験も楽しかった。
  - ・ ふだん使っている漢字の成り立ちなどはあまり知る機会がないので、勉強になりました。習字も楽しかったです！
  - ・ 漢字の歴史について知ることは、中国の文化について知ることであるので奥が深いと思いました。書道が楽しかったです。
  - ・ 漢字の歴史や成り立ちについて知ることができた。最後は難しい漢字を毛筆で書くことができ、とても面白い体験ができた。

## 🍁 クロージングセッション2 🍁 (11:00~11:40)

全体講師：小野 行雄 さん（かながわ開発教育センター）

◆ 講座のねらい

- ・ 1日を振り返り、参加者の今後実践へのモチベーションを高めること。

◆ 講座の内容

1. グループで1日の振り返り

◆ 受講生の声

- ・ 全体を振り返る時間になったのは良かったです。欲を言えば、今まで一度も話したことがない方とお話したかったです。
- ・ 自分が学んだことを人に伝えることで、頭の中で整理することができました。いろいろな経験と決意を知ることができて、よかったです。
- ・ 自分が行きたいも行けなかったセッションの話を聞いて良かった。講師の方も一般参加者として参加する部分があるので、より多くの人と話せてよかった。
- ・ もやもやなこと、決意を交流する中に高校生の発言にはっとして、自分の価値が変わるのを感じました。よい学びの機会でした。ありがとうございました。



## 🍁 閉会式 🍁 (11:40~11:50)

あいさつ

JICA 二本松 所長 富安 誠司



### 2 事務連絡

# ふくしまグローバルセミナー2019 アンケート集計

回収枚数 97

※提出されたアンケートは、すべての項目が記入されているわけではないので、総数と各項目の実数には乖離があります。

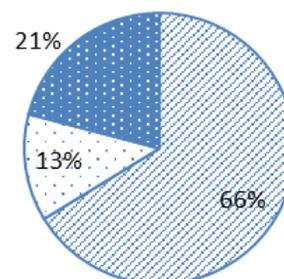
## グロセミ感想

1 これまで「ふくしまグローバルセミナー」に参加したことがありますか？

有効回答数 86

初めて	2回目	3回目以上
57	11	18

参加回数



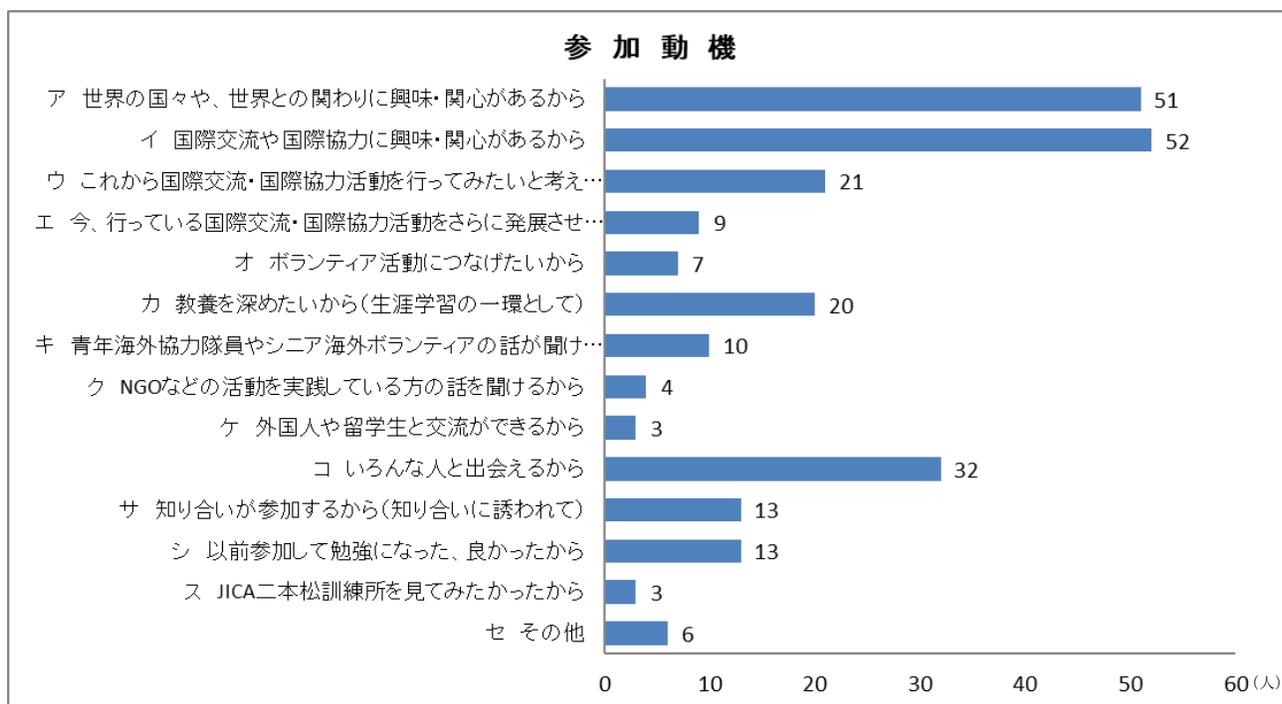
■初めて □2回目 ■3回目以上

2 「ふくしまグローバルセミナー2019」に参加したきっかけや動機は何ですか？

主な理由を3つ選んでください。

有効回答数 86

項目	人数
ア 世界の国々や、世界との関わりに興味・関心があるから	51
イ 国際交流や国際協力に興味・関心があるから	52
ウ これから国際交流・国際協力活動を行ってみたいと考えているから	21
エ 今、行っている国際交流・国際協力活動をさらに発展させたいから	9
オ ボランティア活動につなげたいから	7
カ 教養を深めたいから（生涯学習の一環として）	20
キ 青年海外協力隊員やシニア海外ボランティアの話が聞けるから	10
ク NGOなどの活動を実践している方の話を聞けるから	4
ケ 外国人や留学生と交流ができるから	3
コ いろいろな人と出会えるから	32
サ 知り合いが参加するから（知り合いに誘われて）	13
シ 以前参加して勉強になった、良かったから	13
ス JICA 二本松訓練所を見てみたかったから	3
セ その他 ・大学の授業（異文化交流演習） ・多文化共生社会に興味があるから ・自習セッションを組む ・講師 参加	6



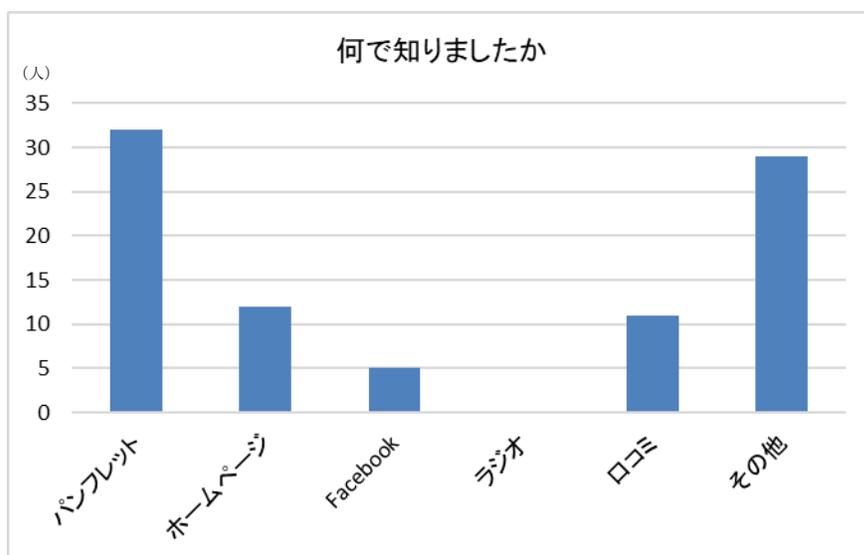
### 3 「ふくしまグローバルセミナー2019」を何で知りましたか？

有効回答数 89

パンフレット	ホームページ	Facebook	ラジオ	口コミ	その他
32	12	5	0	11	29

(その他)

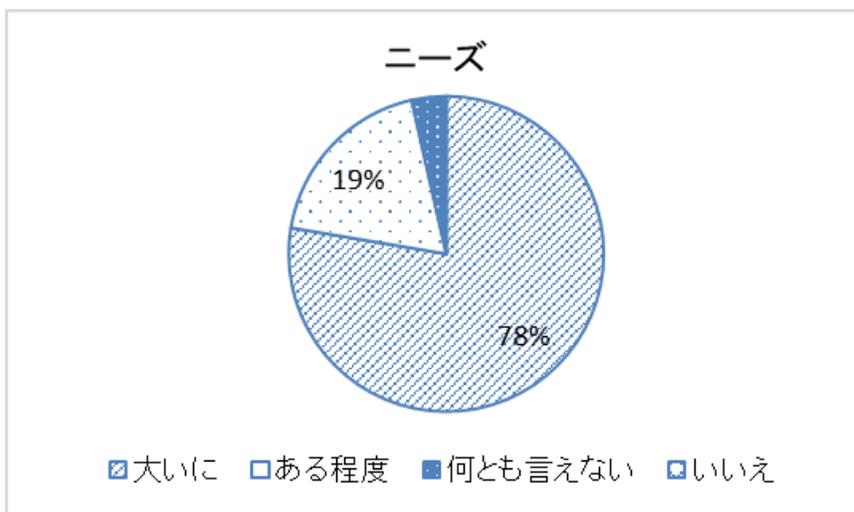
- ・ 家族に勧められた
- ・ 南相馬市国際交流協会
- ・ 学校の先生から聞いて
- ・ 教授の紹介
- ・ 友人の誘い
- ・ 黎明の文化祭
- ・ 国際交流協会経由
- ・ 友人に誘われました
- ・ 学校の活動の一環
- ・ GC カフェ
- ・ 部活



4 「ふくしまグローバルセミナー2019」は、あなたのニーズに合っていましたか？

有効回答数 85

大いに	ある程度	何ともいえない	いいえ
66	16	3	0



5 「ふくしまグローバルセミナー2019」は、今後の活動に役立つと思いますか？

有効回答 86

大いに	ある程度	何ともいえない	いいえ
73	12	1	0

